

## みどりの風

2025

3

令和7年

今月の表紙「いけるかな～(悩み中)」(撮影：中川 めぐみ 様)

第12回 未来に伝えたい農業・農村の風景フォトコンテスト入選作品



## CONTENTS

- 「令和7年度熊本県農業政策・予算」を要望
- 藤木しんや活動報告
- 参議院議員 藤木しんや氏コラム
- 参議院議員 山田としお氏コラム
- JA女性 想いをひとつに かなえよう✿
- 中央会・連合会からのお知らせ

## あぜみち

令和6年を振り返ると、様々な出来事が発生した。令和6年の正月には、石川県で震度7の巨大地震により、能登半島を中心に甚大な被害が発生した。翌日には、羽田空港で日本航空機と海上保安庁の航空機が衝突し、5人が死亡し両機とも炎上。3日には、青山学院大学が箱根駅伝で7度目の総合優勝したものの、熊本出身の歌手八代亜紀さんの訃報も同日だった。

3月には、日銀がマイナス金利を17年ぶりに解除し、金利を引き上げることを決めた。また、小林製薬が販売した紅麹サプリを服用し、死亡との因果関係を疑われる人が1000人に達した事件は、機能性表示食品の表現にも疑問を投げかけた。

5月には、台湾で蔡英文總統から賴清徳總統へとバトンが引き継がれた。

6月には東京都知事選が行われ、小池百合子都政が3期目へと発進した。この都知事選で話題を集めたのが、広島県の元安芸高田市市長の石丸伸二氏で、SNSを駆使し、160万票以上を獲得した。

7月には新紙幣が発行され、熊本県出身の北里柴三郎が千円札に起用された。また、米国では大統領選挙の演説中にトランプ候補が銃撃され負傷を負うという事件が発生した。

8月には宮崎で震度6の地震が発生し、初の「南海トラフ地震臨時情報」が出された。

9月には、自民党総裁選が実施され、岸田文雄総裁から石破茂総裁へと引き継がれた。また、米大リーグでは、大谷翔平選手が50本塁打50盗塁の偉業を成し遂げた。

10月には衆議院選挙があり、自公連立政権が過半数割れに追い込まれた。また、令和の米騒動、米不足が連日話題になった。一方、ノーベル平和賞に日本被団協が選ばれた。

11月には米大統領選挙でトランプ氏が勝利した。

12月に清水寺で発表された今年の漢字「文字は」に決まったが、裏金、金目当ての闇バイト、オリンピックの金メダルなど陰日向に現れた1年だったようである。

# 「令和7年度熊本県農業政策・予算」を要望

JAグループ熊本と県農政連等は12月18日に県知事と県議会議長、自民党県連会長に対して、令和7年度の農業政策と予算の要望を行いました。

県庁等を訪れたのは熊本県内13農業団体の代表者で、農業関連予算では、水田産地化総合推進事業、くまもと土地利用型農業競争力強化支援事業、野菜価格安定対策事業など、57事業におよぶ約214億831万円を要望しました。

また、農業政策要望においては、食料自給率・自給力の着実な向上につながる目標設定と次期基本計画を策定し、生産基盤の拡大・生産性向上等農業生産の増大に向けた施策を具体化するよう求めました。また、経営安定対策等を強化する



▲木村敬知事へ要請を行うJAグループの代表者

など対策を充実させるような支援策を求めました。その他の重点項目としては、適正な価格形成の実現と国民への理解醸成、みどりの食料システム戦略を踏まえたスマート農業の推進、2024年輸送問題に関する支援、共同利用施設の老朽化に伴う再編整備等への支援、半導体関連企業進出に伴う代替農地確保等による営農継続等への支援強化など、を訴えました。

JA熊本中央会の宮本隆幸会長は「気候変動による夏場の高温が厳しくなっている。食料・農業・農村基本法が改正され、今後5年間で農業構造転換の集中実施期間とされたことから、実効ある具体的施策と万全な予算の確保が必要だ」と訴え



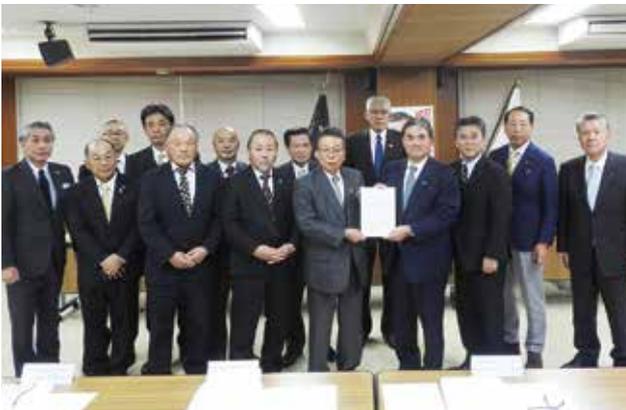
▲山口裕熊本県議会議長(中央)と高木健次副議長(右)に要請書を手渡す宮本隆幸会長(左)

ました。

意見交換では各団体の会長から、畜産・酪農の窮状や半導体関連企業進出による代替農地の確保、2024年輸送問題、重点支援地方交付金の活用、若手農業者が意欲をもって農業に取り組める支援等の要望の声が上がりました。

要望を受け、木村敬知事は「チーム熊本として、しっかり農政を進めてもらう政策の中で具体的に対応して、要望をしっかりと受け止めたい」と話しました。

要望書は、熊本県議会の山口裕議長、自民党県連の前川収会長へも提出しました。



▲自民党県連の前川収会長ら役員に要請を行うJAグループの代表者

## 主な重点要望事項

1. 食料安全保障の確保と次期基本計画策定に係る施策の具体化
2. 生産資材高騰対策等の継続・拡充
3. 適正な価格形成の実現と国民理解の醸成
4. 環境調和型農業、スマート農業の推進等
5. 「地域計画」の策定、中山間地域への支援
6. 2024年輸送問題に関する支援の拡充
7. 生産者向けの補助事業の要件緩和
8. 感染症、鳥獣害、病害虫、高温障害等に強い農業づくり対策
9. 半導体関連企業進出に伴う代替農地確保等による営農継続
10. 土地改良施設の老朽化等に関する必要予算の確保
11. 新規就農者、担い手等への支援
12. 労働力確保対策
13. 農業委員会の体制強化
14. 品目別対策
  - ① 水田・畑作農業政策
  - ② 畜産・酪農政策
  - ③ 園芸・果樹政策

参議院議員

Fujiki Shinya  
activity report

# 藤木しんや

農家の声を  
国政に!



## 活動報告

### 4つのVision

- ① 生産現場からの声を国政に届け、実現します
- ② 食料安全保障の強化の実現を目指します
- ③ 中小・家族経営、中山間地農業への更なる  
理解と支援の拡充に取り組みます
- ④ 地域の拠り所であるJAの取組を後押しします

参議院議員2期目(平成28年7月初当選)  
藤木しんやプロフィール

【自由民主党役職】

農林部会長代理  
食料安全保障強化本部事務局次長  
農林部会 野菜・果樹・畑作物等対策委員長  
農林部会 畜産・酪農対策委員会事務局次長  
参議院自由民主党 政策審議副会長

【参議院所属委員会】

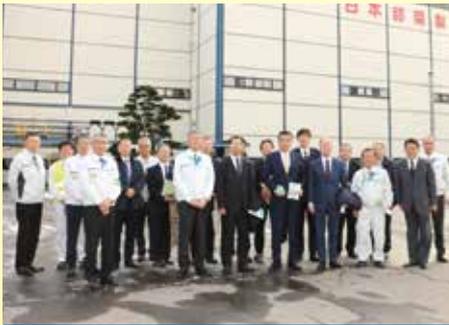
決算委員会 理事  
東日本大震災復興特別委員会 理事  
災害対策特別委員会 理事  
農林水産委員会  
憲法審査会

【これまでの主な役職等】

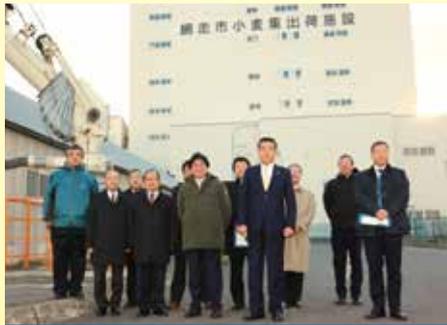
農林水産大臣政務官(2回)  
自由民主党 農林部会畜産酪農対策委員会事務局長 など



## 農家・農業の未来のため全力で頑張ります



農林部会による製糖工場視察(北海道)  
(11月30日)



農林部会による小麦集出荷施設視察  
(北海道)(12月1日)



農林部会による江藤拓農林水産大臣  
への要請(12月5日)



農林部会による澱粉工場視察  
(鹿児島)(12月7日)



農林部会による畜産農家視察(宮崎)  
(12月14日)



農林部会による畜産農家視察  
(鹿児島)(12月15日)

全国農政連推薦・県農政連公認  
参議院議員藤木しんやの

永田町でも**百姓宣言**

【令和7年通常国会開会】

令和7年1月24日に令和7年通常国会が開会となりました。今国会には、農林水産関連では、閣法4法案(土地改良法等改正法案、漁業災害法商法改正法案、森林経営管理法等改正法案、食品流通合理化・取引適正化法等改正法案)いわゆる、農産物の適正な価格形成法案(および議員立法?法案)山村振興法改正法案、棚田地域振興法改正法案)が提出される方向で調整されています。特に、適正な価格形成法案は、農業団体が強く要請してきた内容であり、改正食料・農業・農村基本法による施策の中でも非常に重要な法案となります。衆議院では自民党が少数与党となり、非常に厳しい国会運営となるのが想定されますが、農林部会長代理および参議院農林水産委員として積極的に携わり、今国会内にて無事に可決・成立できるように、尽力して参ります。

また、5年に一度見直しを行う食料・農業・農村基本計画の策定に向けて大詰めの段階です。基本計画の見直しに関連して、「酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針(酪肉近)」および「品目別基本方針(果樹、花き、茶)」の5年に一度の見直しに向けた検討が行われます。畜産・酪農対策委員会事務局次長および野菜・果樹・畑作物等対策委員長として、最大限務めて参ります。

さらに、能登半島地震・大雨被害の復興をはじめ、各地で大雨や地震等の災害が発生した際の対応も重要です。

これらの様々な農政課題に対して、生産者が再生産可能となる所得の確保と基幹的農業従事者の減少下げ止めを目指す、唯一の専業農家出身議員として、全力で取り組んで参ります。

【藤木しんや農政セミナーを開催】

1月10日(金)に熊本県立劇場にて、「藤木しんや農政セミナー」を開催致しました。寒波襲来にもかかわらず、大変大勢の方にご参加いただきました。

開会前には、全国農政連顧問の東野ひでぎ氏にご挨拶をいただきました。

セミナーには、木村敬・熊本県知事、前川収・自民党熊本県連会長、西野太亮衆議院議員をはじめ多くの方々に来賓としてご挨拶およびご出席をいただきました。また、野村哲郎・参議院議員に特別講演をいただきました。

ご多忙の中、御参加・御支援・御協力をいただいた皆様、心より御礼申し上げます。今後も専業農家出身の国会議員として日々精進して参ります。



▲1月10日 藤木しんや農政セミナー

全国・県農政連推薦  
参議院議員山田としおの

農政問題に斬り込む  
食料安全保障の強化に向け  
知恵と努力を

近年、自然災害は、激甚化、頻発化しており、「数十年に一度の大雨」が毎年のように、全国のごくかで発生するといった「異常」が続いています。今年こそ、平穏な一年であってほしいものです。

いま、我が国は、農業従事者が急激に減少し、農地の減少とあわせて、農業生産基盤が弱体化しているほか、海外の農林水産物さえも他国に買い負けるようになりました。

このままでは、将来的に、国民への食料供給が困難になってしまう可能性も否定できません。そのため、食料安全保障の強化や持続可能な農業・農村の実現をめざして、「農政の憲法」とも言われる「食料・農業・農村基本法」が、昨年5月、四半世紀ぶりに改正されました。今後5年間は、「農業構造転換集中対策期間」と位置付けられており、現在、基本法の理念を踏まえて、具体的な施策を定める「基本計画」の策定に向けた議論が行われています。農業者の皆さんが将来展望と希望を持って営農を継続できるような中長期的な政策とそれを裏付ける十分な予算措置が、何よりも必要です。

国内農業を持続可能なものとする

ためには、農地面積の維持と担い手の育成・確保が不可欠です。所得が実現できなければ、若い人は農業に魅力を感じてくれません。農業生産の省力化や効率化が必要であり、規模拡大や、機械化・スマート技術導入が求められるほか、適切な経営安定対策が必要不可欠です。

しかし、我が国の歴史的な農地の分散があるし、とりわけ、山間地の農地の状況は多くの制約があるわけであり、その改善に向け、農地の集積や、利用と所有の調整等の努力がなされていますが、容易ではありません。

もちろん、島国で、山が多く、傾斜地を抱える、我が国の国土の制約からして、各地の努力にもかかわらず、容易に進展させることが出来る状況ではありませんが、様々な工夫と、政策推進と、地域や自治体や農業者の工夫で、乗り越えてゆかねばなりません。さらなる農業者の知恵と努力が求められます。頑張りましょう。



▲富山県高岡市長と

## JAあしきた女性部活動報告

水俣・芦北地域は、不知火海に面した平坦地が少ない中山間地域です。特産としては、果樹、畜産、玉葱、水稻、お茶、花き等があります。

JAあしきた女性部は、1市2町、5支

### ●カローリング大会

これまではビーチボールバレー大会を続けて来ましたが、初心者でもできる『カローリング』を5支部合同で開催しました。未経験者も大丈夫！との声掛けに、子どもさんから80歳代まで、同じレーンに立ち身体を動かす事ができました。



▲カローリング大会の様子

### ●身近な介護 講習会

現在家族の介護をしている、近いうちに介護をする事になるので学びたい、この要望を受け、社会福祉協議会等に依頼し、座学と実技を学びました。同じ立場にいる部員同士で状況を共有し合い、幾分か気持ち楽になったり、車いすや、ベッドへの移動等、具体的な動作を初めて知ったり、と有意義な時間を過ごせたようです。



▲車いすを使つての実演講習

### ●小学校・中学校で食育活動

大野小学校(芦北)の児童が、自らの手で栽培してきたお米を当JA物産館(こぼん)にて販売し、その後場所を移して学習発表会が開催されました。その際、当JA農産加工所産の合わせ味噌で味噌汁を、芦北産からいもでがねあげ、その他おかずを作り、交流しました。

また、津奈木小学校ではサラタ玉葱栽培、津奈木中学校では大根栽培から、漬物づくりまで、青壮年部と年間を通して協力し、商品化から販売まで、と食育活動にも力を入れています。



▲児童との楽しい食育の様子

### ●リユースショップ開催 ～能登半島へ～

令和6年1月1日に発生した能登半島地震。すぐに役員が集まり、行動を起こそうと、まずは不用品回収を始めました。3月にリユースショップを開き、女性部員をはじめ地域住民の方々がたくさん来店され、売上の全額を義援金として準備しました。会場

での募金活動にもご協力を頂き、その後も約半年をかけて募金活動を行い、被害が深刻だった奥能登地域のJA女性部2組織へ義援金として送りました。その後、9月に『令和6年奥能登豪雨』が発災。今後も引き続き募金集めに取り組み予定で



▲来店者で賑わうリユースショップ

### ●門松づくり

毎年恒例となった『三門松づくり』。女性部員の自宅で作った、竹、松、南天などを人数分準備していただき、JA関連施設(それいゆアグリ)が作った、葉牡丹、ピオラを購入して、今回は地域住民の方々も一緒に作業を行い、立派な門松が皆さんのお宅の玄関を彩りました。



▲立派な門松ができました。

「2024くまもと協同組合コンベンション」を開催

JAGグループ熊本や熊本県生活協同組合連合会など11団体で構成する熊本県協同組合間提携推進会議(事務局＝JJA熊本中央会)は12月16日、合志市のJJA熊本教育センターで「2024くまもと協同組合コンベンション」を開催しました。県生協連、県漁連、県森連、JAGグループ熊本などの役員80人が参加し、協同組合の役割について再確認を行い、2025年国際協同組合年(ICYC2025)に向けて機運を高めました。

日本協同組合連携機構(JCA)の比嘉浩専務から「協同組合のアイデンティティ」と題して講演が行われ、地域

課題の解決に向けて協同組合間の連携を呼びかけました。また、「国際協同組合年に向けて何が出来るか」をテーマにグループ討議を行い、参加者らは所属団体の取り組みを紹介しながら、地域貢献活動や一般消費者向けのイベントなど各団体の連携について意見交換しました。この中で学生や消費者と商品の共同開発や広報展開、協同組合の施設を回るウォーキングイベントなど多数のアイデアが出されました。

熊本県協同組合間提携推進会議は今後、グループ討議で出されたアイデアや意見を参考に、ICYC2025の本県の取り組みを検討していく予定です。



▲講演するJCAの比嘉専務



▲各グループからの発表の様子

JA経済連

第49回JA植木まつりを開催

熊本に春の訪れを告げる緑の祭典「第49回JA植木まつり」が1月25日から合志市の熊本県農業公園カントリーパークで始まりました。

JJA植木まつりは、県内農家が生産した良質・低価格な庭園用樹木や庭園、特産物を直売する人気のイベント。県内JJAとJJA熊本経済連が消費者とのふれあいの場を提供することで、緑化木事業の振興・発展とJJAにおける特産品づくりの振興を目的とし毎年開催しています。

2月24日までの開催で、県内のJJAからマツなどの庭木をはじめ、洋ラン・花苗・観葉植物などの花鉢・苗物、趣向を凝らした庭園、地域自慢の特産物などが展示即売されます。また、フワフワアレンジメントや剪定(せんでい)などの体験教室や抽選で賞品が当たるスタンプリリーなどのイベントも実施します。



▲経済連茶業センターブースも大好評

1月25日の開会式には、行政機関やJAGグループなどから関係者が出席しました。主催者である経済連の丁道夫代表理事会長は「49回と回数を重ね、春の風物詩として定着してきた。会場で春を実感し、自然の豊かさを感じてもらいたい」とあいさつしました。

会場の様子



## 地震に備える

～地震から命と生活を守るために～

昨年1月1日に発生した能登半島地震から1年が経過しましたが、未だ復旧復興の途上であり、被災者の皆様は現在も日常を取り戻す為に活動されていることと思います。

また、今年1月13日には日向灘を震源とする震度5弱の地震が発生している等、大きな災害が頻発しています。

このような大きな自然災害は、私たちの生活を一変させてしまいます。大地震に遭遇した際に少しでも落ち着いて対処ができるよう、備えは万全におくことが大切です。

JA共済では、万々に備える仕組みとして建物更生共済を準備しています。ご検討ください。

～JA共済の建物更生共済

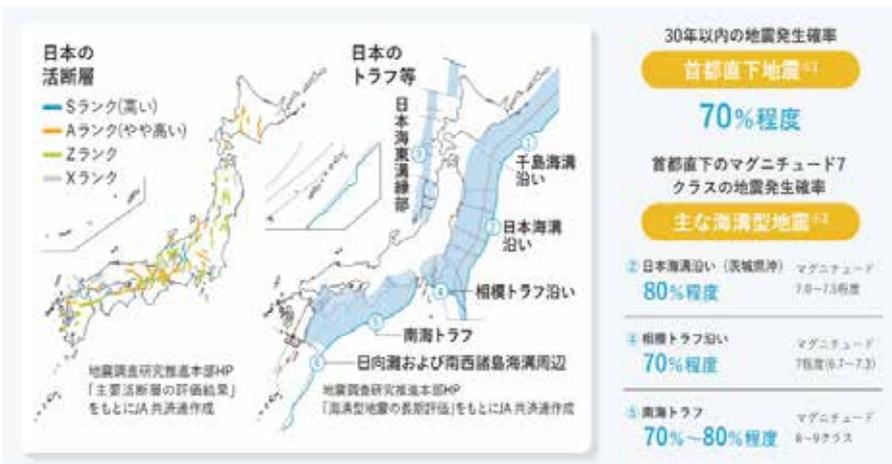
「むてきプラス」のポイント～

- ①火災はもちろん、台風や地震などの自然災害もしっかり保障します。
- ②火災や自然災害によるケガにも備えることができます。
- ③掛捨てではなく、保障期間満了時に満期共済金を受取ることができず。

さらに、生活を営む上で大切な家財の保障「My家財プラス」もおすすめてです。

詳しくはお近くのJAへお気軽にお尋ねください。

■ JA共済防災サイトより (JA共済HP)



また、「JA共済防災サイト」では、防災に関する知識や情報を紹介しています。

建物更生共済  
**むてきプラス**

建物更生共済  
**My家財プラス**

防災について知って備える  
**JA共済防災サイト**

## 農政連

### 女性組織活動の活性化と部員意識の高揚を高める

～JA熊本県女性大会・家の光大会～

JA熊本県女性組織協議会とJA熊本中央会、家の光協会は12月13日、宇城市のウイングまつばで「令和6年度JA熊本県女性大会および家の光大会」を開催しました。

開会にあたりJA熊本県女性組織協議会の太田桂子会長は「JA女性部は、地産地消や食農教育、農産加工や直売所活動等にJAと一体となって取り組み、食料・農業の大切さを消費者や次世代を担う子供たちに伝えてきた。今後女性部活動を地域の活性化につなげていかなければならない」と挨拶しました。

また、JA熊本中央会の宮本隆幸会長は「これまで以上にJAを積極的に利用し、JAの活動・事業運営にも参加・参画いただきたい」と述べました。当日は、女性部や青壮年部、JA役員など関係者約750名が参加しました。

組織活動体験発表では、「部員の思いに寄り添って」と題して発表したJAかみましきの藤原真澄さんを、記事活用体験発表では、「家の光」におしえられて」と題して発表したJAやつしろの下崎洋子さんをそれぞれ最優秀賞に選びました。

また、今年フレッシュジュニアの作文コンクール発表で「新たな価値を与える存在」と題して発表したJAあまくさ

の杉本さくらさんが最優秀賞に選ばれました。

最優秀賞に選ばれた藤原真澄さんは、令和7年度九州大会に、下崎洋子さんは令和7年2月に神奈川県で開催される全国家の光大会に熊本県代表として出場します。

記念講演では、日赤熊本健康管理センターの小山和作名誉所長が「医は食に学べ、食は農に学べ、農は自然に学べ」私の農村医学から予防医学の道へ」と題して、これまでの農民の健康調査、予防の大切さ、そして自身のがん罹患等について語られました。



▲大会会場風景



▲大会で挨拶を行う太田桂子女性協議会会長

# 「まさか！」が 頻繁に起こる国、日本。

熊本地震以降、  
震度5弱以上の地震

平成28年4月14日～令和7年1月15日まで  
震度5弱以上の地震が発生した回数  
(※※、気象庁震度データベース参照)

## 128回

「共済」は「助け合い」。地震などの自然災害が多発するなか、真価が発揮されています。

平成28年3月 東日本大震災	【共済金支払】 685,819件9,384億円 56家財 97,080件 1,031億円	平成28年4月 熊本地震	【共済金支払】 94,227件1,487億円 56家財 11,519件 122億円	令和6年1月 熊直半島地震	【共済金支払】 121,051件1,501億円 56家財 15,682件 97億円
-------------------	--	-----------------	---	------------------	---

令和6年12月末時点 JA共済連関へ

建物更生共済 **むてき** My家財

くらしの保障、相談するなら **JA共済** 資料請求はこちら

2443990280

豚肉を愛しもう！  
**豚活** (トナリ)

## くまもとのりんどうポーク くまもとSPF豚

美味しくて  
ジューシー♪

スタミナ豚丼

よくだいへん  
豚肉です。

JA熊本経済連  
JAくまもと肉豚銘柄推進協議会

レシピ  
公開中

## 子どもたちの未来に 食の安心をつなぐ

国消国産

私たちの国で消費する食べものは、できるだけこの国で生産する

その考え方を国消国産といいます。

日本は今、食料の約6割を輸入に頼っています。

もしも輸入が難しくなると、必要な食べものが足りなくなったら…農畜産物は、足りなくなったからといって、すぐに生産を拡大することはできません。だから、日ごろから「国消国産」を進めることが、とても大事。「国産」をもっと食べましょう。

国産を食べると、いいこといっぱい！

- 自給力アップで、いざというとき安心！
- 日本の農業を食べて応援できる！
- おいしくて安全・安心な食事を實現！
- 輸送で出るCO<sub>2</sub>を減らし、SDGsに貢献！

国消国産が日本の食の未来をつくれます。

JAグループ

JAグループサポーター 林修

JAグループ熊本の国消国産ページ

JA全中の国消国産ページ

**発行／熊本県農業者政治連盟**

熊本市中中央区南十反町2-3 電話 096-333-0880・1284

編集責任者／中村 隆宏

●発行日／令和7年2月15日(毎月1回15日発行)

●定価／1部50円(但し、会員の購読料は会費の中に含む)(税別)

立春は、二十四節季において春の始まりとされる日で、節分の翌日になります。では、今年の節分はいつかというところ、2月2日です。旧暦では立春が新年であったため、その前の日に邪気を払う目的ではじまったようです。一般的には2月3日が節分で豆まきを行い、恵方巻を食べる風習があるようです。また、恵方巻を食べる時は方角が話題になりますよね。年神様がいらっしゃる方角を向いて食べると縁起がいいと言われています。今年は西南西の方角です。この恵方巻は大阪で古くから行われていたようですが、「コンビニ」のチェーン化により全国に広がりが現在に至っているようです。

恵方巻の具材は、7種類(かんぴょう・しいたけ・卵焼き・桜でんぶ・えび・きゅうり)入れるとよいとされ、縁起の良い七福神に由来しているようです。

さて、立春の食べ物といえば、ふきのとうが有名です。ちよっと苦みがありますが、天ぷらや落みそが好きです。また、魚では魚鱈に春と書く鱈(さわら)です。鱈の西京焼きや照焼きがおいしいですよ。

「棚田のあかり」

撮影：大崎 満洲美 様

第12回 未来に伝えたい農業・農村の風景  
フォトコンテスト入選作品

あ  
と  
が  
き